

給食だより

1月



令和5年 1月 10日
塩竈市立第一中学校

あけましておめでとうございます。今年も皆様にとってよい年になりますようお祈り申し上げます。引き続き安心・安全な給食作りに留意していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

1月の給食目標 「感謝の気持ちをもちましょう」

いただきます！



食事の始まりと終わりの挨拶「いただきます」「ごちそうさま」は感謝の言葉を伝える言葉です。その意味を知って心を込めて挨拶をしていきましょう。

ごちそうさま！



野菜、果物肉、魚、卵・・・私たちが食べているものは、単なる「食べ物」「食材」ではなく、**元々は生きている命のあったもの**です。様々な命をいただいていることに感謝して食事の前には「いただきます」と挨拶します。

食事から色々な栄養をとるためには、多くの食材が必要になります。色々な食材を活用するためには、**野菜や果樹の生産者、漁業・畜産関係者の方々が食材を育てたり、捕獲したりする必要があります。**また、それらの食材を**流通させる市場や販売店があることで、私たちの手元に食材が届きます。**そして、手に入れた食材を**調理する人がいて、美味しく食べることができます。**食事の準備に関わった全ての人に感謝して「ごちそうさま」と挨拶します。

ご馳走様

昔、お客さんをもてなすために、ほうぼう走り回って食材を集めて「ご馳走」を出していました。その苦勞を察して、もてなされた側が「ご馳走様」と感謝の挨拶をするようになったと言われています

第一中学校の給食週間は1月23日～27日です。この期間に昭和30年～平成元年時代の学校給食のフードサンプルを展示します。

全国学校給食週間

1月24日～30日

全国学校給食週間は昭和25年度から始まった取り組みで、毎年、学校給食への理解や関心を深めることを目的に実施されます。学校給食は、もともと貧しい子どもたちを飢えから救い、栄養状態を改善させるためのものですが、現在では役割が大きく変わり、子どもたちが望ましい食習慣や食に関する正しい知識、実践する力を身につけるための重要な役割を担っています。

昔の学校給食について知ろう！



明治22(1889)年～



山形県鶴岡町の小学校で、貧しくて弁当を持ってこられない子のために、ご飯と魚や野菜を中心とした食事を提供したのが学校給食の始まり。その後、全国へと広がるが、戦争による食料難で中止される。

昭和22(1947)年～



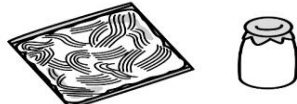
戦後、LARA（アジア救済公認団体）から寄贈された脱脂粉乳・缶詰・シチューの素などの物資を使い、学校給食が再開される。

昭和25(1950)年～



アメリカから寄贈された小麦粉でパンが作られ、パン・ミルク・おかずの完全給食が始まる。

昭和38(1963)年～



ソフトめんが開発され、人気メニューに。翌年には牛乳の本格供給が始まり、脱脂粉乳から牛乳へと切り替えが進む。

昭和51(1976)年～



米飯給食が正式に始まり、カレーライスや炊き込みご飯、ピラフなどが登場し、メニューの幅が広がっていく。